

# ぴあちゅーれだより

2023年7月61号



## かわら版

発行 子育て支援サロン“ぴあちゅーれ”  
小倉北区浅野3丁目8-1 AIMビル3階  
子育てふれあい交流プラザ内  
TEL 093-511-1085

～ひとりで悩まず、一緒に考え楽しく子育てをしませんか～

こんにちは。子育て支援サロン“ぴあちゅーれ”です。  
子育ての悩み、不安等ありませんか。そんな時は気軽に“ぴあちゅーれ”にお立ち寄りください。  
子育ての悩みを聞かせてくださいね。一緒に考え子育てのお手伝いをしたいと思っています。  
育児講座が始まりました。6月に開催された4回の育児講座には多くの皆様に参加していただきました。  
7月も4回開催されます。まだ数名申し込みの枠がありますので、奮ってご参加ください。

### 6月に開催された育児講座のアンケートより、参加された方の声をあげました。

北野久美先生(北九州市保育士会 会長)

- ・オムツ替えの話、制についての話が聞けて良かった。保育園に預けるのが不安でなくなった。
- ・日々育児だけに向き合って、まわりの情報を聞く機会ができた。絵本を紹介して頂いたので、さっそく探してみようと思う。
- ・子どもの、言葉にできない気持ちを考えられる親でいたいと思いました。
- ・初めての子育てで不安なことがたくさんありましたが、話を聞いて気持ちが軽くなりました。今回の講座に参加して良かった。

中島俊介先生(北九州市立大学 名誉教授)

- ・怒りに向き合おうと思いました。心理学がとても面白いです。
- ・毎日イライラ怒ってしまう今の私に、良いお話を聞くことができました。“一次感情”を伝えられるように意識づけ頑張ります。
- ・日々の育児で子どもへの対応が本当にこれでよかったのかと悩むことが多々あるが、育児の中で自分も成長していきたい。
- ・人を差別する子にはなって欲しくないけど自分がよく人を自分と比べてしまうことがある。自分が比べることをやめたい。

吉野賢一先生(九州歯科大学 教授)

- ・冒頭から興味をひく話があり、食卓を囲むことが子どもの成長に大きく関係すると聞いて大切にしたいと思いました。
- ・専門的なお話をわかりやすく教えていただけてとても有意義な時間を過ごせました。離乳食の参考にさせていただきます。
- ・ほんとに面白かった！帰って「夫に話したい。」
- ・どんな育児の本を読むよりも、とても自分の心にささり、とても興味深く素晴らしいお話を聞くことができました。

山下志保先生(OK牧場 代表)

- ・クレヨンのお話を使ってのお話、とても聞きやすかったです。この絵本、買って息子にも読んであげたいです。
- ・話が分かりやすく、面白くてテンポもよくてあっという間に1時間が終わった。機会があればいろいろな話を聞いてみたい。
- ・グループトークが良かった。みなさんそれぞれの考えが違う。
- ・ほめ方、叱り方のストロークがわかって良かった。意識して使いたい。マザーテレサの「心をこめたか」の言葉に救われた。

### これから開催される育児講座をお知らせします。

- |           |                                |                   |
|-----------|--------------------------------|-------------------|
| 7月 7日(金)  | 「乳幼児の応急手当・救命指導」                | 講師:小倉北消防署浅野分署救急隊  |
| 7月13日(木)  | 「生まれて来てくれてありがとう」               | 講師:警察本部少年課 安永智美   |
| 7月21日(金)  | 「楽しく遊んでふれあって」～うちの子最高!!～        | 幼児教育専門家 熊丸みつ子     |
| 7月27日(木)  | 「食で育む心と体～乳幼児の食生活～」             | 小倉北区役所管理栄養士 山田彩加  |
| 8月24日(木)  | 「読書をする子どもに育てる読み聞かせの方法」         | ブックネットワーク北九州 仲 紀子 |
| 10月13日(金) | 「子育ては子どもの笑顔から～子どものやりたいを育むために～」 | 北九州市保育士会副会長 黒田玲子  |

皆様の参加をお待ちしています。一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

子育ては笑顔とふれあいで  
～小さくて みんなではぐくみ 育ててく～  
北九州市保育士会 会長 北野久美

はじめに

奇跡の命との出会いをされた皆様、毎日の育児お疲れ様です。子どもは“社会の宝”であるといった考えは  
かなり浸透しています。子育て支援の仕組みや仕掛けはたくさんあります。  
4月からは「こども家庭庁」もスタートし、日本がようやくこども真ん中社会に目を向けるようになりました。  
そんな中、私たち保育士はこれまで同様子育て中の方々と“子どもの内なる声”を届ける保育のプロであり  
応援団であると考えています。  
ただ、単に肩代わりするための存在ではなく、子ども達の表出できない思いや言葉も、成長の流れもお伝え  
したい“翻訳者”でもあります。子ども達の内なる声を、少しでもお伝えできたらと思います。  
子どもの権利を大切に！！

おわりに

小さくて みんなではぐくみ 育ててく  
この標語に込められた想いを今一度共有してみませんか？  
この、みんなではぐくむ、みんなって誰？周囲の大人が責任の持てる社会でなければ…とも思います。  
かけがいのないわが子、かけがえのない自分自身、かけがえのないパートナー、かけがえのない周囲の人々  
……温かいはぐくみの持つ意味を一緒に考えてみましょう。



### 《7つの抱きしめ》に思う……。

- ①体で抱きしめる
- ②心で抱きしめる
- ③言葉で抱きしめる
- ④視線で抱きしめる
- ⑤振る舞いで抱きしめる
- ⑥関係性で抱きしめる
- ⑦祈りで抱きしめる



『抱きしめる教育』(湊川栄太著)より

いかがですか？

7つの抱きしめ…これは、もしかしたら、子どもだけでなく、自分に、仲間に、家族に必要な  
ものかもしれません。  
自己肯定感が大切だといわれている今だからこそ、  
【非認知能力】が子どもの学びに向かう力や生きる力につながると全世界的にも常識となっ  
ている今、やはり根本で大切なことは、「人が人を育て」「人が人の中で人になる」ということでは  
ないでしょうか。

※北野先生育児講座資料より抜粋



